

子どもの居場所を探しています

学校から、子どもの歩く速さで 5 分程度の場所で発達障がいや事情により児童センターや自宅で過ごせない子や課題のある子の勉強や放課後過ごせる居場所を探しています。

ちょっと放課後過ごしたり、遊んだり、一緒に勉強をしたり、好き勝手に過ごせる場所が小学校の高学年、中学生にも必要です。

【たん と キ ャ ッ ズ あ お き の 自 動 販 売 機 で す が 、 価 格 高 騰 の た め 価 格 改 正 が あ り ま し た 。】



コラム ～ 普通って何？ ～

お正月明け、信濃毎日新聞の特集で「普通って何ですか？発達障害と社会」というタイトルで毎日特集記事が掲載されています。これは、毎年2ヶ月の集中特集で、昨年は別の話題で連載されていました。今年は、「発達障がい」に着目したテーマで、さらに「普通」という言葉の意味について考える2ヶ月間です。この文章を書いている時点では、まだ始まって1週間ほどなので、このあとどんな展開になっていくのかはわかりません。

私は、普段、「普通」という言葉は使いません。なぜなら、普通という言葉はあくまでも自分自身が持っている尺度でしかなく、人によって異なるからです。

同じような言葉に「一般的」「あたりまえ」「常識」などの言葉も同じように基準が、自分自身の尺度なので使わないようにしています。

しかし、街中ではこの言葉が多くやりとりされており、その言葉が実は知らず知らずのうちに「発達障がい」の方々の気持ちを傷つけてしまうことも、気づいたら差別をしているかもしれません。

しかし、使っている方は無意識だけにそのことすら気づかないこともあります。

この「たん と キ ャ ッ ズ あ お き」通信を始めたのは、この青木村の中で少しでも「発達障がい」について興味を持ってもらったり、知っていただく事で、「普通」や「あたりまえ」と思っている事があたりまえではないけれど、一緒に生活していくことは難しいことではないということを知ってもらいたくて2ヶ月に1度のペースで発行させていただいています。

今や発達障がいと診断される方やそこまでではないけれど、似た特徴を持った方は人口の3分の1を占めるほどになってきました。

「個性がある」「特徴的な人」と見ることもありますが、「変わった人」「可怪しい人」と見られてしまう事もあります。当然、生きていく中で課題とされる行動や犯罪に該当する行動を繰り返す人は、温かく見守ってあげてくださいと言ってもそうはいかない事もります。

このチラシは、青木村限定ではありますが、今後、みなさんの周りにそんな方たちがいても、きっと理解をしていただけると1年ほどこのチラシを配り続けて感じています。

信毎の特集だけでは「普通」という基準に対しての明確な答えは出ないと思います。が、みなさんも一度、気にかけていただけたらと思います。

また、ご自宅では信毎は購読していないという方で興味を持たれた方は、一度、図書館などで読むこともできますので目に見てみてください。きっと、みなさんなりの考えが明確になっていくはずですよ。

裏面も読んでいただき、何かお子さんに不安や心配事などがありましたら、村の保健師や教育委員会、たん と キ ャ ッ ズ あ お き まで、ご相談いただければ対応いたします。

たん と キ ャ ッ ズ あ お き (NPO 法人たん と。)

TEL 0268-75-6789

青木村田沢3075-1

■開所時間 9:00-17:00

■定休日 土日祝日

NPO法人たん と



チック症とトゥレット症候群

2023.01

前回、お伝えした場面緘黙症と吃音症と勘違いされる症状としてチック症とトゥレット症候群というものがあります。

チック症

チック症には、主な症状として「運動性チック」と「音声チック」の2つがあります。また、一過性チック（約1年以内に症状が無くなるもの）と慢性チックがあります。



【運動性チック】

まばたき、顔をしかめる、口をゆがめる、口を尖らせる、舌を突き出す、首を左右に振る、肩をびくっとさせる、すくめる、腕を振る・まわす、地団太する、跳び上がるなどの動きを本人の意思とは関係なく繰り返してしまう。初発症状は、まばたきなど顔面に多く現れることがあります。

【音声チック】

鼻を鳴らす、舌を鳴らす、風邪でもないのにせき払いをする、といった行為をわざとではないのに繰り返してしまうことがあります。

音声チックの場合は、上記の様な症状の他に、汚言症（卑劣な単語や人を罵倒するような言葉を言ってしまう）、反響言語（人が言った事を同じように言ってしまう）、反復言語（同じ言葉などを何度も繰り返す）などの症状がある方もいます。

どの動作も、普段からよく見られる動作であったり、状況なのですがこれが、自分の意思ではなく無意識に起こってしまうというのが、このチック症状の特徴です。

運動性チックは、4歳ぐらいから始まる 경우가あり、音声チックは10歳ごろから始まる子どもが多く、慢性の場合は、一時的に落ち着く時もありますが、症状が重いと大人になっても続く場合があります。

運動チック

- ・首を振る
- ・目をパチパチさせる
- ・顔をしかめる など



音声チック

- ・せき払いをする
- ・奇声を上げる など



チック症は、動作性、音声共に突然起きる事があるということ、自分ではコントロールすることが出来ないため、理解されていないと、「ただただ、迷惑な人」という印象になりがちです。また、音声チックの中の症状で汚言症がある方は、意図していない言葉が勝手に出てくるため、勘違いされやすくそれが原因で緘黙症になってしまう事もあります。

トゥレット症候群

実はこのトゥレット症候群は、チック症と同じ現象のことを示しています。

では、何が違うのでしょうか？チック症は、ある程度の期間が経過すると収まったり目立たなくなってきました。しかし、1年以上継続して強くチック症の症状が続き日常生活でも支障をきたしてくる場合は「トゥレット症候群」と呼ばれます。今現在は、約1,000人に3~8人程度が認められ、男性より女性の方が多くみられます。また、チック症やトゥレット症候群の方は、併発して発達障がいなどの障がいを同時に発症している方も少なくありません。

この2つの症状がある方への対応は以下のようにしていただけると嬉しいです。

おおごえでさけぶ



・叱責や注意をしない…これは叱るな、注意するなという事ではなく、このチック症状などで出た言葉や動作に対してということです。

・緊張状態や不安を和らげる…緊張してしまい不安で落ち着かなくなると普段よりさらに強く、症状が出てきてしまいます。本人の気持ちが落ち着けるように、周りも配慮をしていく必要があります。

・子どもに寄り添った声掛け…本人がどこまで自分のことを理解しているのか？とか、年齢に応じた対応をしてください。人によっては自信をなくしてしまい、人前に出ることや喋ることを避けるようになってしまいます。そんなときは、そっと寄り添って上げるように心がけましょう。

・周囲に理解を求める…チック症状は、他人から見ると癖だと思われたり、わざとやっていると思われたりします。そのようなときは、周りが状況を理解し共有して見守れる環境を作りましょう。